

学校だより 特別号

南白石

令和8年(2026年)3月19日
札幌市立南白石小学校
TEL 863-0701

記述していただいた内容とアンケート回答をもとにして、考察を以下のようにまとめました。なお、**児童・保護者・教員のアンケート項目は、枝間内容が異なります。**しかし、「まなびづくり」「こころづくり」「からだづくり」と大きく捉えて、その枠内の回答ごとの数値を合算してグラフにしています。

児童・保護者・教職員の結果を並べて記載しましたので、比較しながら御覧ください。

アンケートの回答項目

A = 十分によい

B = よい

C = やや足りない

D = 足りない

※グラフは、A・B・C・Dの回答の合計の割合を表したものです。

①【まなびづくり】自ら考え、判断し、表現する力の育成

児童の学習に向かう意識や教員の指導方法などについての設問です。児童の「やや足りない」「足りない」と感じている回答が、保護者・教員と比較して多くあり、低い評価となっています。児童の感覚を重く受け止め、対応策を検討し、改善するように努めます。

児童アンケートでは、

「疑問や課題を解決するために、自分なりに調べようとしている。」の質問に対して、「やや足りない」「足りない」と感じている児童は、低学年が34.3%、高学年が23.6%と他の質問と比較して低い評価となっています。

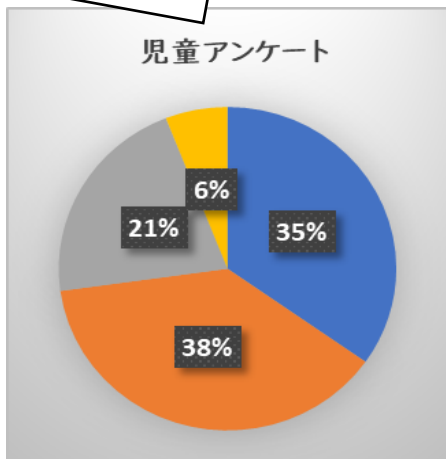
保護者アンケートでは、

「十分によい」「よい」の肯定的評価が96%と高い評価となっています。

教員アンケートでは、

「できるわかる楽しい協働的な学びを志向する授業実践しているか。」の質問に対して、「やや足りない」と感じている教員は23%と他の質問と比較して低い評価となっています。

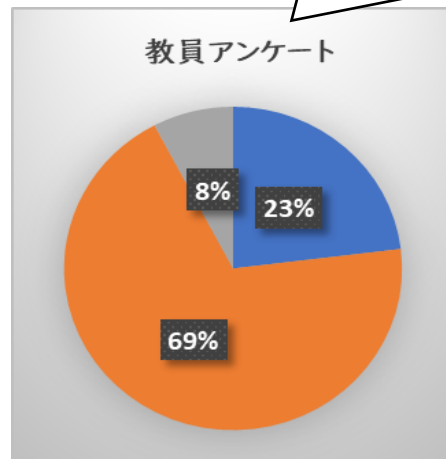
児童アンケート



保護者アンケート



教員アンケート



今年度は、以下の3つのことについて重点を置き、教育活動を進めてまいりました。

- 児童が自ら考え、判断し、表現する場面を盛り込んだ授業を実施しました。
- 家庭での学習につながるように、ぐんぐんカードを用いてよりよい家庭学習の取組例を紹介したり、授業において学びを振り返る場面を設定したりしました。
- 「ブリタニカ」「オクリンク」「ドリルパーク」など、様々なアプリケーションでChromebookを積極的に活用しました。

学ぶ力を育てるために、次年度は以下の2点について取り組みます。

①授業の終わりの振り返りを大切にして、家庭学習につながることを目指します。

教職員間で研修や情報共有を重ねて、充実を図ります。また、授業を公開し合って、指導方法の研究を行います。

②問題を見付け、自分なりの考えをもてるような授業づくりを行います。

「今日わかったこと」「次にやること」を児童が意識できる授業づくりに努めます。その積み重ねが、計画を立てて主体的に学習に取り組む姿につながると考えます。また、子ども自身が学び方の選択肢をもち、自ら選択・決定できる授業づくりに努めます。授業の中に選択・決定の場面が適切に設定されていたか、さらにその力が育っているかという視点から授業を振り返り、指導の改善と意識の向上を図ります。

②【こころづくり】 命を大切にし、思いやりのある子の育成

自分や友達のことを肯定的に捉えて、繋がりを大切にしているかをみるための設問です。児童の「やや足りない」「足りない」と感じている回答が、保護者・教員と比較して多くあり、低い評価となっています。児童の感覚を重く受け止め、豊かな心の育成のために支え合い・高め合う集団作りの推進と絆づくりなどの対応策を検討し、改善するように努めます。

児童アンケートでは、

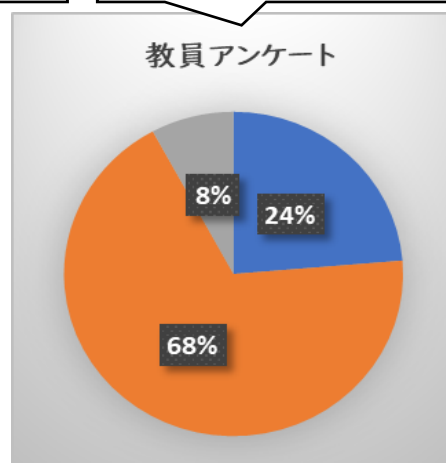
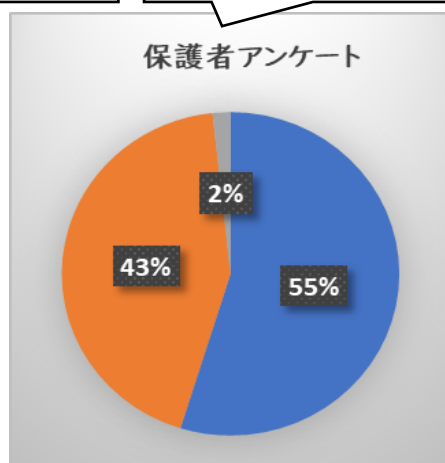
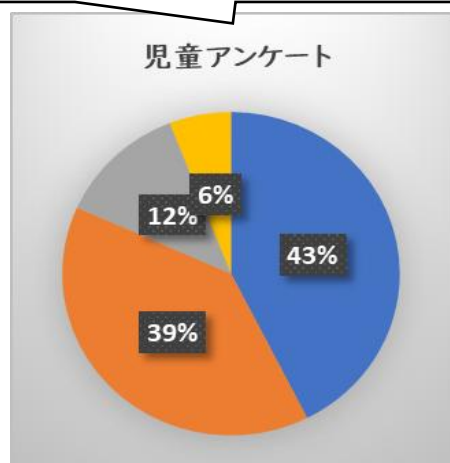
「自分の目標をもって生活している。」や「意見(考え)の違う人の話を聞き、よく話し合おうとしている。」の質問に対して、「十分によい」「よい」の肯定的評価が80%以上と高い評価となっています。

保護者アンケートでは、

「十分によい」「よい」の肯定的評価が98%と高い評価となっています。

教員アンケートでは、

「十分によい」「よい」の肯定的評価が92%と高い評価となっています。



今年度は、「あとしまつ」に重点を置き、様々な行事を年間計画に沿って進めるために、以下の取組を大切にまいりました。

○生活スタンダード「4つの『あ』」の定義を共有することで、共通の価値観を育み、規範意識の向上に努めました。○全校朝会などの改まった場の意義を考えさせるとともに、その場にふさわしい振る舞いについて声を掛け、よりよい姿を目指す指導に努めました。

豊かな心を育てるために、次年度は以下の2点について取り組みます。

①人との関わりの基本である「聴き合うこと」を大切にすることを教育活動全体で推進します。

話を聞くことに終始せず、同じところ・似ているところを探そうとするなど、相手に興味をもち、内容を理解しようと能動的に聴いたり、共感的に聴いたりすることができるよう指導の充実を図ります。そのために、ペアやグループ活動で同じところを探したり、話合いの後にどんな聴き方ができたのかを自己評価・相互評価したりする活動を行います。

②一人一人の考えを大切に、お互いの思いに耳を傾けながら対話する活動を通し、相互理解を深める関わりを推進します。

自分の考えを安心して伝えられるように、ペアや少人数での話合いを取り入れます。また、「最後まで聴く。」「否定せずに受け止める。」といった話合いのルールを共有し、お互いの考えを尊重する態度を育みます。その上で、お互いの考えを聴き合いながら、共に考えを深めていく活動を大切にします。

③【からだづくり】 自らの健康を考え、進んで運動に親しむ子の育成

健康に気を付けながら生活したり、様々な出来事に対して考えて行動し、粘り強く最後まで取り組んだりすることができているかをみるための設問です。児童の「やや足りない」「足りない」と感じている回答が、保護者・教員と比較して多くあり、低い評価となっています。児童の感覚を重く受け止め、体力向上を含む「からだ」に関わる取組について対応策を検討し、改善するように努めます。

児童アンケートでは、

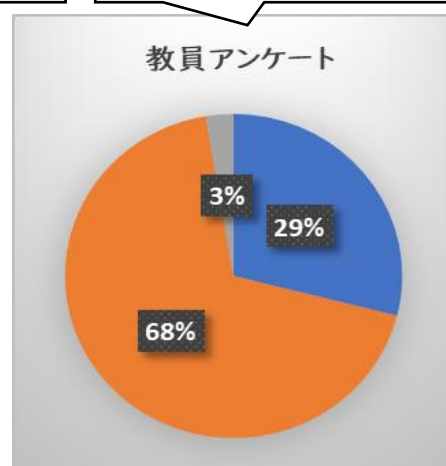
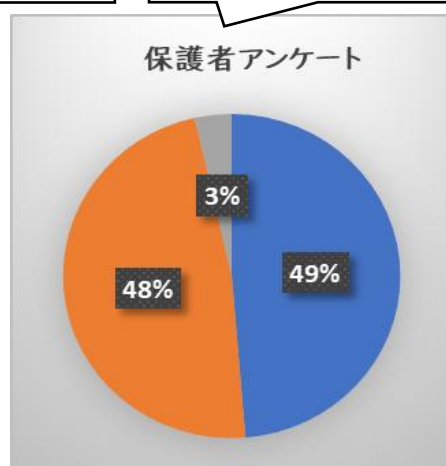
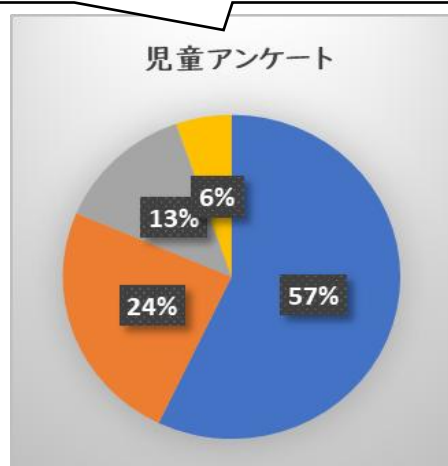
「休み時間は、外や体育館で遊ぶようにしている。」という設問に対して、「やや足りない」「足りない」と感じている児童は、低学年が28.6%、高学年が34.5%と他の質問と比較して低い評価となっています。

保護者アンケートでは、

「十分によい」「よい」の肯定的評価が97%と高い評価となっています。

教員アンケートでは、

「十分によい」「よい」の肯定的評価が97%と高い評価となっています。



今年度は、できるだけ外遊びを奨励し、運動に親しむ機会を増やして、成長期の子どもたちの健康と体を考えるために、以下の取組を大切にまいりました。

○みなしろ体操の効果について改めて見直し、本校の準備体操等に積極的に位置付けました。

○児童の食習慣や生活習慣について、御家庭でのゲームやスマホの使い方など、ネット利用に関する危険性を積極的に発信しました。

健やかな身体づくりのために、次年度は以下の2点について取り組みます。

①運動に積極的に親しむことができる環境づくりを行います。

休み時間における遊び場の提供を行うとともに、なわとび週間や大縄大会など、主体的に運動に親しめる取組を継続します。あわせて、バスケットゴールや的当て、紙でっぼう、大谷グローブなどを活用し、自然に運動に親しむことができる環境づくりを進めます。

②自分の身体を大切にしたり、健康に関心をもたせたりする指導に取り組みます。

自分の大切な身体について考える授業や、生活習慣・体力づくり・メディアリテラシーなどに関わる出前授業を通して、自分の身体を大切にしようとする気持ちを育みます。

④【子ども一人一人に応じた教育】安心してよりよい学校生活を送るために

学習や普段の生活の中で抱える様々な課題に対して、きめ細かく支援することができているかをみるための設問です。児童の「十分によい」と感じている回答が多く、保護者・教員も「十分によい」「よい」が96%以上と高い評価となっています。その一方で、児童の「やや足りない」「足りない」と感じている回答も見受けられることから、一人一人の状況に目を配り、効果的な支援体制の充実に努めます。

児童アンケートでは、

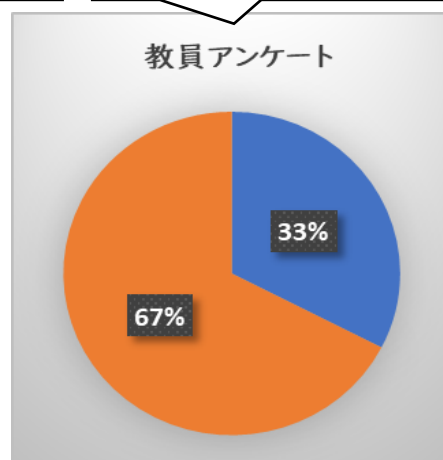
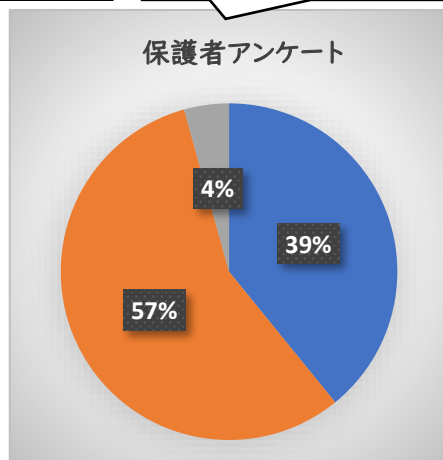
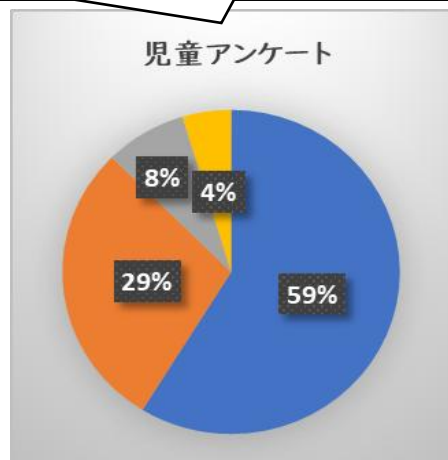
「先生方は、自分が安心して学校での生活を送ることができるようにしている。」の質問に対して、「十分によい」「よい」の肯定的評価が93%以上と高い評価となっています。

保護者アンケートでは、

「十分によい」「よい」の肯定的評価が96%と高い評価となっています。

教員アンケートでは、

「十分によい」「よい」の肯定的評価が100%と高い評価となっています。



今年度は、学習だけではなく、学校生活や家での生活の中で悩みや不安をもつ児童への支援として、以下の取組を大切にまいりました。

○学びのサポーターおよび図書ボランティアによる支援体制の整備に努めました。

○スクールカウンセラーの積極的な活用を推進するとともに、組織的に対応する体制を整え、児童が安心して学べる学校づくりに努めました。

一人一人に応じた支援をするために、次年度は以下の2点について取り組みます。

①一人一人のよさに目を向けた指導を行います。

担任だけではなく、多くの目で子どもたちを見守り、職員間での情報共有を大切にします。また、日々の学校生活や教育活動の取組について、保護者の皆様に分かりやすくお伝えするとともに、御意見や御要望にも真摯に耳を傾け、よりよい教育活動の充実に努めます。

②お子様の悩みや不安について、専門家による対応を推進します。

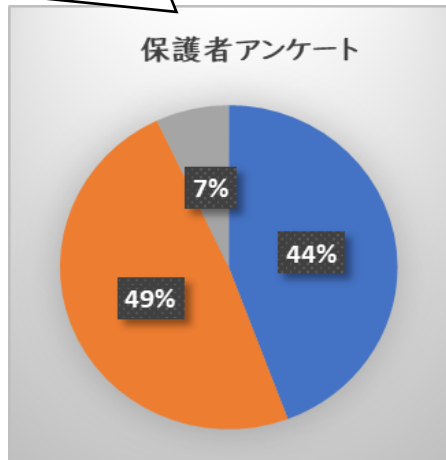
学校生活や御家庭での悩みや不安に適切に対応できるように、状況に応じて教員だけではなく、スクールカウンセラーや外部機関などの専門家と連携しながら、お子様と保護者の皆様からの御相談に、丁寧に対応することができるように努めます。

⑤【信頼される学校づくり】 子どもたちの学校での様子と情報の迅速な共有のために

学校・保護者・地域が連携して取組を進めることができているかをみるための設問です。保護者・教員も「十分によい」「よい」が93%以上と高い評価となっています。しかし、「やや足りない」「足りない」と感じている回答も見受けられます。真摯に受け止め、対応策を検討して改善するように努めます。
※この設問は、保護者・教員のみ実施しております。

保護者アンケートでは、

「十分によい」「よい」の肯定的評価が93%と高い評価となっています。



教員アンケートでは、

「十分によい」「よい」の肯定的評価が92%と高い評価となっています。



この項目では、すべての設問で約9割の方から肯定的な評価が得られました。

- 学校ホームページや各種お便りを活用し、学校や学級での取組について、積極的に発信するように努めました。
- 「すぐーる」を活用し、URLを貼ってリンクしやすくするとともに、緊急時などの情報発信にも努めました。

信頼される学校づくりのために、次年度は以下の2点について取り組みます。

①地域の方々の力を借りながら、保護者の皆様と共に考えます。

地域や保護者の皆様と連携を図りながら、お寄せいただいた御意見やお考えを大切に受け止め、共に考え、よりよい学校づくりに努めます。

②情報の種類によって効果的な伝達媒体を検討します。

学校から発信する情報が分かりやすく、迅速に届くように努めます。また、内容に応じて、紙媒体・「すぐーる」・学校ホームページなどの中から、最も効果的かつ効率的な方法を検討し、適切な情報発信に努めます。